

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 1階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	令和1年10月19日	評価結果市町村受理日	令和2年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201251-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がオープンし三年目となり、未経験の職員も介護福祉士の資格取れるようになってきている。介護福祉士や様々な資格を取り、資質向上を行い、毎日のケアに取り入れていきたいと思っている。また入居者様や家族様とかかわる機会をできる限り多く持てるよう、家族様をお誘いしたレクリエーションなどの予定をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。バス停が近く、周辺には保育園、スーパー、公園、高齢者施設等がある。建物は新しく清潔で、共用空間、居室とも広く明るい。広めのトイレやリフト付きシャワーチェアを備えた浴室、エレベーターが設置され、壁には習字作品、季節の装飾などが飾られている。職員が働きやすいよう、職員スペースや長いカウンターがあるのも特徴である。法人が多くの介護施設を運営し、職員の教育・研修体制が整い、働きやすい職場となっている。職員は法人および事業所の理念をよく理解し、利用者に優しいサービスを提供している。地域との関係では、住民や関連施設、ボランティアとの交流の他に、近くの保育園児との交流が始まり、利用者の楽しみになっている。家族への情報提供の面では、毎月、ユニットごとに利用者の様子を詳しく載せた写真入りのホーム便りを作り家族に送付している。ケアマネジメントの面では、利用開始時にきめ細かいセンター方式のアセスメントシートを作成して、利用者の情報を詳しく把握し、介護計画に活かしている。災害対策の面では、消防署や地域の協力を得て訓練を行い、リストに沿った備蓄品も整えている。快適な環境と充実した設備、適切なサービスのもと、利用者が楽しく安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざし、共に生き共に感じ合い、共に喜びあえるくらしを創りつづける」という理念に基づき、入居者様に寄り添い、安心して暮らせるよう、職員間で話しあい、より良い方法を日々検討している	法人のグループホーム共通の基本理念の中に「地域に根差し共に生き」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。その他に事業所独自の基本方針を作り、理念と共に共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議では地域の方も参加して頂いています。また、町内のイベントなどにも参加しております	地域の夏祭りや、近くにある法人関連施設のお祭りに利用者が参加している。歌謡曲や民謡のボランティアが事業所の行事に来訪している。最近では、近くの保育園の園児が事業所を訪れて踊りを披露し、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門職として、認知症についての研修に参加しています。また相談があった際には支援できるようにしております		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、施設の現状、活動の内容を報告しております。地域の方やご家族様からの意見なども聞きサービス向上に努めております	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、複数の利用者家族の参加を得て、防災や外部評価、身体拘束などをテーマに話し合っている。地域関係者の参加は年1～2回である。議事録を家族に送付している。	地域の方の参加頻度がより多くなるよう、継続的に町内会関係者、民生委員などに参加を働きかけることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ毎月月初めに入居状況調査表を提出や依頼のきたアンケートなど報告しております。	管理者は、運営上不明な点があれば電話等で市役所に問い合わせしている。また、提出書類があれば区役所に直接出向いている。管理者が市や区の管理者会議に参加するとともに、職員が管理者会議の際の勉強会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束委員があり定期的に委員会を開催している。また外部の研修などにも参加しております	身体拘束ゼロへの手引きを用意し、3か月に1回以上の委員会、年3回以上の勉強会を行っている。禁止行為について、職員の理解をさらに深める方針である。最近、利用者の離脱があり、玄関への出入りを施錠しているが、外出意向があれば職員が同行し、閉塞感を感じさせないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内での勉強会で職員に虐待に関わる意識をもって頂き、管理者は注意を払い、防止に努めている		

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の関わるケースが無い為具体的に関わることはありませんが、今後研修など通して学んでいきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせを行い、質問等がありましたら、お答えしております。また退去の際など今度想定されることなど、お答えすることがあります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱がありますが、投函されてはおりません。ご家族様来られる際、できる限りお話を聞かせていただくよう。また、運営推進会議など来られた際に意見を聞かせていただくことがあります。	家族からの要望を一覧表に記し、職員間で共有している。今後は利用者ごとに家族の意見や些細な意向を残すノートの作成も検討している。毎月、ユニットごとに利用者の様子を詳しく載せたホーム便りを作成して家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際などご家族様などからお話をお聞きしております。	月1回、全体会議とユニットごとの会議を行い、活発に意見交換している。管理者と職員は年2回の定期面談を行っている。職員は備品管理やお便り作成、行事、オムツ発注などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で、職員と一緒に働くことにより、各々頑張っているところややりがいなど		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修だけではなく、法人外の研修に積極的に参加を行い、その参加内容を会議の中などで話し、少しでも取り入れられるようしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区の介護施設の事業所があつまる屯田いたわりリンクに参加を行い、情報の交換や、また、北区GH管理者連絡会、日々の研修の参加で交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅や入院先に行き面談を行い、ご家族様やご本人の要望など聞いております。入所後どのような生活をしていきたいか聞き、相談しやすく安心して頂ける環境づくりにつなげている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、職員とご家族様、ご本人とお会いし、生活歴、性格など伺い今後も安心して過ごせるようご要望に耳を傾けております			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握したうえでできる、サービスの提供を伝えていく。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を見つけ、役割を探し利用者様と職員との関係が築けるように努めております			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況をご家族様に伝え、ご希望や思いを聞き日々の生活に生かしていく			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人から馴染みの人や場所を伺っているが中々行けることや合うことが難しく、施設での職員や他入居者様と馴染みの関係になり安心して過ごせるようにしております	3名ほどの利用者に友人や親戚が来訪している。誕生日に知人から花が届く方や、正月に年賀状が届いて返信の手紙を書く方もいる。家族と一緒に馴染みの美容室に通ったり、本州の自宅を見に行ったりした方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士楽しく生活できるようにする。レクリエーションなども行い職員が間に入りながら良い関係性を築けるよう心掛けております			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後の生活について話をお聞きしたり、また、その後気になる点がありましたら、話をお聞きするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から利用者様の思いなどを聞き出来る限りご希望の対応をできるようにする。会話が難しい方はこれまでの生活歴や様子を見ながらご本人様が望む生活を提供していきます	半分ほどの方は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方は問いかけの反応や家族の情報をもとに把握している。詳細なセンター方式のアセスメントシートがあり、今後は追記も行う意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にどのような生活をしてきたか伺い安心した環境で生活できるように努めております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で一人一人の生活リズムを考え、体調や心身状態の変化に配慮し日々の生活を提供。職員同士での送りの際も気づいた事は伝える		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のフロア会議で職員が気づいた点やご本人の望む生活、ご家族様の思いを聞きケアプランを作成しております	介護計画を3か月ごとに更新している。更新時はカンファレンス結果をもとにモニタリング表を作り、次の計画を立てている。日々の記録はパソコン上の「習慣」の欄に計画目標に連動した内容を記録し、計画見直しに活かせるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を記録し、職員が共有し全体を把握しております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画以外でも、都度職員と話しをし、柔軟に解決していくようにしております		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近くにあるスーパーなどに一緒に行き、楽しんで頂けるよう支援致します		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用していたかかりつけの病院を確認し、ご家族様、ご本人の望む場合継続、もしくは訪問に変更できるよう支援致します	2つの医療機関による定期および随時の往診があり、7~8割の利用者が受けている。その他の通院は概ね事業所で送迎している。受診内容を個人ごとにパソコン記録の「受診」欄に記載し共有している。	

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携や往診の看護師と相談を行いアドバイスをいただき参考にすることがあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際や入院中など、ご本人様の様子について、どう施設で過ごしていたかなどできる限りはやくお答えできるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向をお聞きし、施設内でどこまでできるか、お伝えし、できる範囲での希望に添い、医療と連携を行いそして家族様含め話し合える機会を作っていくと思う。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」を説明して同意書に署名捺印を受けている。看取りの事例はまだないが、事業所としてできる範囲での対応を行うこととしている。看取りの外部研修を受講した職員による報告会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の際、連絡網やマニュアルに添い対応を行っています。外部の勉強会だけではなく施設内での勉強会を行っています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練避難訓練に向けての勉強会、また地域の他施設と連携を行い、災害時の訓練を行っています	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、うち1回は消防署の指導を受け、その他に地域と合同で水害の訓練を行っている。救急救命訓練や備蓄品の準備も行っている。地震対応について職員間での話し合いは特に行っていない。	地震マニュアルに沿って職員間で話し合う機会を作り、地震への初期対応、危険箇所の確認、入浴時などケア場面別の対応などについて確認しておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、更衣や排泄時などプライバシーの配慮を行っています	新人研修で「利用者権利擁護」を学んでいる。利用者への呼びかけは苗字に「さん」づけを基本に、馴れ合い的な言葉かけをしないように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志を確認し、お手伝いや安心できる選択肢ができるよう働きかけております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちや身体状況に合わせて職員都合ではなく入居者様のペースに合わせて対応しております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝ご本に様に着たい服を選んでもらっています。髪型などもご本に希望のカットなどしております		

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際は盛り付けなどを入居者様にやっていただき、職員も一緒にやることにより楽しみながら行っております。後片付けの際も一人一人の状況に合わせて、お手伝いして頂いております	利用者は食材会社から提供される副食を炒めたり、盛り付けなどを手伝っている。寿司の出前を取ったり、大型ショッピングセンターのフードコートに出かけて好きな食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人にあった食事を提供しております。食事量少ない方などは医療と連携をとっております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、実施しております。夜間帯は義歯をお預かりし洗浄剤につけております。歯科往診もあり配慮すべき点を把握しております		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミング確認しトイレ誘導や声掛けを行っております	「水分・排泄チェック表」に全員の排泄を記録し、必要に応じて声かけや誘導を行っている。昼夜ともにトイレでの排泄を基本に、自分でできる行為を行ってもらいながら自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品摂取していただいています。排便の間隔を記録しております。また医師の指示のもと、下剤の調整も行ったおります		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で別れ週2回の入浴、ただし、体調や気分に合わせて時間や曜日変更を柔軟に行っております	土曜日以外の午前中を基本に、一人週2回の入浴を支援している。身体状況に応じて、リフト付きシャワーキャリーを使い全員湯船に入っている。入浴剤を使用したり音楽を流し、入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本にの体調や様子を見ながら日中も昼寝する事がある。また夜間帯は部屋の照明なども確認し、安心して寝て頂いております。寝つきが悪い方は、職員が寄り添う、話を傾聴したりしております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬提供の際は職員やご本人様に確認を行いミスがないよう提供しております。また医師の処方箋や往診、受診の際、説明などもしっかり聞き内容を職員で共有しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご自身で出来る事は行って頂いております。また入居者様との会話の中でそれぞれの思いを聞き提供出来る様にしております		

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望で散歩に出かけたり、職員声掛けで散歩や買い物に出かけります。年に数回が外出レクなどもあり楽しんで頂いております	夏季などは玄関先で外気浴をしたり、車椅子の利用者も一緒に近隣の公園や川沿いの遊歩道を散歩している。外出行事でお花見や石狩方面に紅葉見学に出かけている。和食レストランや厚田の道の駅などに出かけて食事を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しております。外出レクの時のみそれぞれお財布を持って頂き好きな物を購入されます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っておりません(希望が無い為)		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしております。職員が毎日清掃を行い綺麗な環境作りを心がけております	明るく開放感のある造りで、居間と食堂に沿って居室が配置されている。大きなソファで、季節感のあるクリスマスツリーや雪だるまの装飾、観葉植物などを見ながらゆっくり寛ぐことができる。利用者ごとのアルバムを作成して、いつでも見れるように工夫しているユニットもある。壁には、利用者の習字などの作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の意見を取り入れ、ソファの位置や食席の位置を決めております		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具などを持ってきて頂いております。ご本人の使いやすい配置に配慮しております	入り口に、手作りのクリスマスリースが飾られている。クローゼット付きのゆったりした居室に、使い慣れた椅子や収納家具などを持ち込んでいる。本人の作品や職員手作りのメッセージカードなどを飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手摺りを設置し安全に立ち上がれるように工夫しております。居室には表札やご自身の写真など貼り分かりやすい様にしております		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 2階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	令和1年9月27日	評価結果市町村受理日	令和2年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がオープンし三年目となり、未経験の職員も介護福祉士の資格取れるようになってきている。介護福祉士や様々な資格を取り、資質向上を行い、毎日のケアに取り入れていきたいと思っている。また入居者様や家族様とかかわる機会をできる限り多く持てるよう、家族様をお誘いしたレクリエーションなどの予定をしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201251-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざし、共に生き共に感じ合い、共に喜びあえる暮らしを創りつづける」という理念に基づき、入居者様に寄り添い、安心して暮らせるよう、職員間で話しあい、より良い方法を日々検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議では地域の方も参加して頂いています。また、町内のお祭りなどにも参加しております。また、施設行事にもボランティアを募り、一緒に参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での経験、あるいは、研修で学んだ知識や技術を運営推進会議等の場をかりて、発表、理解の輪を広げることが出来るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の現状や活動の内容を報告している。地域の方やご家族様からの意見なども聞きサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へ毎月初めに入居状況調査表を提出や依頼のきたアンケートなど報告しております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会、身体拘束に関わる研修を通して勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内での勉強会で職員に虐待に関わる意識をもって頂き、管理者は注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の関わるケースが無い為具体的に関わることはありませんが、今後研修など通して学んでいきたいと思う。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせを行い、質問等がありましたら、お答えしております。また退去の際など今度想定されることなど、お答えすることがあります。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、入居者様やご家族様からの要望等を記録し、周知し工夫をしながら業務に反映をさせている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際などご家族様などからお話をお聞きしております。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で、職員と一緒に働くことにより、各々頑張っているところややりがいなど。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修だけではなく、法人外の研修に積極的に参加を行い、その参加内容を会議の中などで話し、少しでも取り入れられるようしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区の介護施設の事業所があつまる屯田いたわりリンクに参加を行い、情報の交換や、また、北区GH管理者連絡会、日々の研修の参加で交流する機会を作っている。			

自己評価	外部評価	項目		外部評価	
		自己評価(2階)	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、事前訪問にてご本人様、ご家族様、あるいは施設職員からご本人の状況などを確認。その上で、ご本人様から話を聞かせていただきアセスメントを行う。不安や悩みなどをくみ取り安心できる環境づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の中で、ご家族様の思いを聞かせていただき、可能な限り実現できる方法を試案する。その上で、ご家族様と話し合いの場を設け、入所に向けての準備をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に伴い、事前訪問で状況を整理し、環境の変化による心境の変化も踏まえ、ご本人様・ご家族様と話し合い、何が必要かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事と出来ない事を整理し、出来る事は可能な限りご自身で行うことが出来るように支援している。また、出来ない部分については、職員が介助をするが、ご本人が出来る自信がつくよう声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況をご家族様に説明し、協力を得ることが出来るよう依頼をしている。可能な範囲で協力をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人から馴染みの人や場所を伺っているが中々行けることや合うことが難しく、施設での職員や他入居者様と馴染みの関係になり安心して過ごせるようにしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人となりを把握し、交流を楽しむことが出来るように配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後の生活について話をお聞きしたり、また、その後気になる点がありましたら、お話を聞きするようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いをくみ取り、可能な限り意向に沿うことが出来るように、職員間、ご家族様と相談をしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報を基に、ご本人様やご家族様から話を聞かせていただき、思いをくみ取り居室の雰囲気づくりや過ごしやすい環境づくりができるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の入所前後の生活の変化を踏まえ、出来ること出来ないことを整理し、その時の体調や顔色など踏まえる。また、普段と違う言動などがあった場合には特に、情報を職員間で共有し経過観察や医療従事者等への相談をしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの中で職員間・ご家族様や往診医など関係機関との相談の必要性を確認している。必要性が認められた場合は、ご家族様・関係機関に相談をしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の変化や気づきについて記録、共有をしながらモニタリングや担当者会議につなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の要望をくみ取り、マッサージなど外部からの協力を取り入れている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパー等に出向き、一緒に買い物をしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様に往診医療機関を紹介している。また、相談の上、入所前からのかかりつけ医療機関の継続か往診医療機関の利用かを選んでいただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に協力していただき、入居者様の体調の変化について相談を持ち掛けている。また、状況に応じて、同法人の特養看護師に協力・相談をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居者様の情報提供を行っている。また、入院中も可能な限り面会し状況を整理、職員への情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向をお聞きし、施設内でどこまでできるか、お伝えし、できる範囲での希望に添い、医療と連携を行いそして家族様含め話し合える機会を作っていきたいと思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、フローチャートを作成。また、勉強会等の機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の避難訓練、地域連動の避難訓練を実施している。また、勉強会や訓練後の反省会などを通して、職員間の共通理解ができるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の話については、他の入居者様に聞かれないよう配慮をしている。また、排せつや入浴・更衣などに関しては、他の入居者の司会に入らないよう配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と相談し、意向を確認してから介助を行っている。入居者様が困っている時は、話を傾聴し、その時のご本人様の気持ちに沿って介助をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様と相談し、時には提案し、意向に沿って過ごしていただけるよう配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては、ご本人様に選んでいただいている。また、ご自身で選ぶことに困難な場合は、複数枚準備し、選んでいただいている。		

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜の盛り付けなど入居者様に手伝っていただいている。また、茶碗拭きや食器洗いなども一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の必要な水分摂取量の把握や食事量の把握に努めている。食事摂取量の少ない入居者様に関しては、声掛け等により召し上がっていただき、往診医に状況を報告。また、血液検査等を通して栄養状態の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを実施。義歯等の洗浄の介助を大々している。また、往診歯科医に口腔状態を確認していただきながらケアにつなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を作成し、入居者様の排泄状態を把握している。また、排泄の時間間隔に配慮しながら、状況に合わせた声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳など乳飲料を提供や体操など身体を動かす機会を提供している。排泄記録や医師へ相談し、指示によって下剤を服薬していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を設けられるよう配慮し、入浴の計画を立てているが、ご本人様の体調やその日・その時の気分によって変更をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り日中に活動していただき、夜間は安眠できるように支援をしているが、体調等に配慮し日中も休んでいただくことがある。落ち着かない様子で入眠できない場合には、寄り添い話をするなど入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、入居者様の服薬内容の理解に努めている。また、誤薬のないよう複数名で確認の上、服薬介助を実施している。薬による状態の変化等が疑われる場合には、医師に相談し理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好まれる活動(歌など)を提供し一緒に楽しめるよう配慮している。また、話を傾聴し、不安の解消や気分転換につなげている。		

グループホーム ハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員からの提案や入居者様の意向にて近隣を散歩したり、買い物に出かけたりしている。また、ご家族様の理解・協力を得ながらドライブなど遠出もしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しております。外出レクの時のみそれぞれお財布を持って頂き好きな物を購入されます			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望がなく未実施。希望が新たに出てきた場合には、職員・ご家族様と相談し環境を作る支援をする。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、毎日の清掃・消毒作業を行っている。また、室温や光なども入居者様と相談しながら調節を行っている。季節に合わせた飾りつけなど実施している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士で交流が楽しめるよう食卓の座席の配慮を行っている。また、ソファ等、自由に利用できる空間を用意している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具等をご家族様に用意していただき、居室や食事の際に使用していただいている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室については、表札のほか、わかりやすいようご本人様の作品や顔写真を掲載してる。トイレには、印をつけている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ハートの家七番館

作成日：令和 2年 1月 26日

市町村受理日：令和 2年 2月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加頻度を多くなるよう心掛ける。	現在参加人数が平均2、3人程度ですので、町内会や民生委員、ご家族様含め3、4人になるようにする。	近隣の介護施設や町内会などに来ていただけるよう、用紙に工夫を行い文面を作成する。	1か月
2	35	地震マニュアルの周知と理解	職員とマニュアルについて話を行い、どのようなシチュエーションでも対応をできるようにする。	全体会議を利用し、地震時の対応の勉強会を実施する。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。